

多元共生を持続可能にする教育のため、 相乗的学問知を創発する

現代イギリスを軸に検討する熟議を通じて

To Create Synergistic Academic Knowledge Building Sustainable Pluralistic Coexistence in Education:

Through Deliberation Based on the Modern Development in
the United Kingdom

柳田 雅明

Masaaki YANAGIDA

研究期間

2019年6月23日 ～ 2020年3月31日

研究プロジェクトチーム

柳田 雅明 教育学科・教授

大森 秀子 教育学科・教授

樋田大二郎 教育学科・教授

水山 光春 教育学科・特任教授

クリストファー・D・ハモンド 教育人間科学部・助教

藤原 淳賀 地球社会共生学部・教授

1. 研究目的

本研究プロジェクトは、多元共生のための教育に向け現代のイギリスと互恵的に学び合い相乗的学問知を創発しうる基盤を構築していく。現代イギリスは、多元共生に向けての教育において世界に多くのことを発信する。かつイギリスには、メソジスト教会が学校教育に初めて取り組んだキン

グズウッド校 (Kingswood School) が存在する。よって、多元共生のための教育に向けた研究の重要性は、青山学院において殊に大きい。

土台となる研究活動は、実はすでに継続的に積み重ねられてきた。その場となってきたのが、現代イギリス教育研究会である。その起源は、教育学科教員であった岩崎三郎と今野喜清そして大学院教育学専攻兼任講師であった谷口琢男氏 (茨城大学教授) が、当時日本においてイギリス教育研究を主導する一人であった山内太郎氏 (東京大学名誉教授) を招き、大学院生たちそして青山学院出身者たちとで開いた研究会であった。その30年にも及んで年5回の研究会を続けるネットワークは、他大学出身者をも含め全国さらに現地イギリスにも広がり、50名を超えている。

多元共生のための教育に向け豊かな基盤づくりに至るのには、この現代イギリス教育研究会のネットワークを最大限に活かせる「教育人間科学研究所研究プロジェクト」がまさに好適となっている。なぜなら、イギリス現地研究者・実践家の招聘によるシンポジウム (学会との連携・共催も可能性も含めて) などを将来的に視野に入れ、その基盤となる研究を格段に発展させていくことができるからである。

2019年度で目指した到達点は、多様性の中でのシティズンシップ (市民性) 教育とその土台となる学びを軸に、互いの研究進展を持ち寄って熟議をする場を確立することである。それによって、多元共生という観点での継続的な研究発展に向け、2016・2017・2018年度の教育人間科学研究所研究プロジェクトで培った共通基盤をさらにしっかり構築できる。

2. 研究内容・計画

以上の研究目的のもと、2019年度は、本研究プロジェクト参画者は持続可能な研究創造を培うための基盤づくりに向け、自らの研究者としての蓄積に立脚して、共生社会のための教育に向け自らの知見に基づき提起をしていく。「理論・理念研究」「実証研究」「実践研究」をそれぞれ手法とする中、相互に関連させていくことで発揮される創造性を涵養することとなる。研究プロジェクトチームにはみな、多元共生を視座とする研究に蓄積がある。大森にはメソジスト教育研究そして樋田にはイギリス在外研修経験そしてそれらを土台とする多文化と包摂性と深く結びついた研究蓄積がともにある。柳田のイギリスにおける包摂性ある教育取り組みに関する研究も、多元共生の観点からの蓄積として有効となる。2019年度には、シティズンシップ教育と環境教育についてイギリスを軸に探求してきた水山、およびイギリスで学歴と職歴を積み重ねつつ多様性と意見表明の自由を鍵概念として比較教育研究に邁進してきたハモンドも加わっている。さらに本学部以外の学内専任教員として、多元共生を考究する神学研究者でありかつ修士 (教育学) であって、現代イギリス教育研究会にも20年にわたり加わってきた藤原 (地球社会共生学部) が参画する。また前々年度まで本学専任教員以外の者としてチーム構成員となってきた佐々木毅 (国立教育政策研究所名誉所員／教育思想・教育政策・異文化間教育研究)、菊地かおり (筑波大学／シティズンシップ教育研究)、本学教育学科卒業の飯田直弘 (北海道大学／入学者選抜・資格制度改革研究) そして本学教育人間科学

研究科修了にて博士（教育学）取得の中西啓喜（立教大学／学力と不平等・包摂性に関する社会学的研究）も、プロジェクトチームにおける理論的・実証的研究での内容充実に関して引き続き力添えをする。そして、現代イギリス教育研究会のネットワークを存分に活用し、最先端を走るイギリス教育研究者たちを、前述の50名を超える中から、発表者として招く。

3. 研究活動

研究会開催は、「教育人間科学研究所研究プロジェクト」としての位置付けでは、以下に示す通り3回となった。すでに先行して5月15日には、「移住者の子どもたちの教育をめぐる日英比較」に関する意見交換の会を、「現代イギリス教育研究会」として行っている。なお、当初予定していた第4回研究会は延期となったものの、結局2020年7月15日と11月4日にオンラインにて別途開催できた。

会 議 名 2019年度第2回現代イギリス教育研究会
 [青山学院大学教育人間科学研究所研究プロジェクトとしては第1回]
開催日時 2019年年7月10日 19時00分～ 21時00分
開催場所 14号館9階第15会議室
研究発表・質疑応答概要

「イギリスにおける探究型歴史教育の成立とその問題点」

菅尾 英代氏（東京大学大学院）

1960年代から80年代にかけてイングランドで成立した「ディシプリンとしての歴史教育（history as a discipline or disciplinary history）」について、その特徴と問題点を検討した発表であった。「ディシプリンとしての歴史教育」とは、歴史学者たちが共有する方法論（研究の観点や探究方法）をも教育内容として、教授・学習過程に組み込み、学び手自身が過去を再構成し、歴史を分析することで、世界について理解を深める探究型歴史教育のことを言う。菅尾氏発表で具体的に検討したのは、ブルーナー仮説すなわち「どの学問でも、知的性格をそのままに維持して、どの発達段階のどの子どもも身に着けることができる」との仮説」とイギリス歴史教育学における知識論との関係性であった。質疑応答においては、広い学問視角のもと、活発な意見交換がなされた。

会 議 名 2019年度第3回現代イギリス教育研究会
 [青山学院大学教育人間科学研究所研究プロジェクトとしては第2回]
開催日時 2019年10月23日（水）19時00分～ 21時00分
開催場所 14号館7階第12会議室
研究発表・質疑応答概要

「メソジスト系大学の世俗化に関する研究

—ジョン・ウェスレーと教派的アイデンティティー—」

大森 秀子 (青山学院大学)

イギリスにおいて開始されたメソジスト学校が、アメリカ合衆国において、特にその南部における高等教育機関において、どのように教派の影響と離れていった状況を、1910年代までを焦点に研究発表がされた。その土台としたのは、青山学院大学総合教育研究所プロジェクト「キリスト教と人間形成」において発表者が著した論考であった。質疑応答においては、参加者それぞれが持つ学問上の基盤のもと、入念な事実確認そして概念整理のもと、活発な意見交換がなされた。

会 議 名 2019年度第4回現代イギリス教育研究会

[青山学院大学教育人間科学研究所 研究プロジェクトとしては第3回]

開催日時 2019年12月11日 (水) 19時00分～ 21時00分

開催場所 14号館8階・第10会議室

研究発表・質疑応答概要

“Student Activism in Contrasting ‘Spaces of Autonomy’:

A Comparison of Social Movements Originating in Japan, Hong Kong, and the UK”

クリストファー・ハモンド (青山学院大学)

発表内容は、近年の学生運動を日本・香港そしてイギリスで比較する研究であった。その比較対象としての焦点としたのは、日本ではSEALDsであり、香港では一国二制度をめぐるの動向、そしてイギリスでは「エクステンクション・リベリオン」の活動であった。発表の土台としたのは発表者ハモンドが本学部紀要『教育人間科学部研究』に寄稿する学外研究者との共著論考であった。質疑応答では、参加者それぞれが持つ学問上の基盤のもと、さらに参加者各世代における、特に日本における1960年代以降の自身や身近な者としての実体験を含めた蓄積に基づき、情報と意見の交換が活発になされた。

以上を通じ、多元共生を持続可能にする教育のため、相乗的学問知を創発する機会を、共有できた。

そして、次の研究会も2発表により予定されていたものの、新型コロナウイルス感染拡大を鑑み、延期とした。

会 議 名 2019年度第5回現代イギリス教育研究会

[青山学院大学教育人間科学研究所 研究プロジェクトとしては第4回]

開催日時 2020年3月4日 (水) 19時00分～ 21時00分

開催場所 14号館8階第10会議室

研究発表題目

「イギリスにおける早期離学問題と政策的対応」

菊地 かおり氏（筑波大学）

「困難を抱える若者に対する学習機会多様化と移行支援

—イギリスのオルタナティブ学習支援(Alternative Provision)をめぐる課題から—」

白幡 真紀氏（東北大学・博士研究員）

なお、白幡氏発表の研究は、2020年7月15日に実施された。菊池氏発表の研究は2020年11月4日に実施できた。

さらに「現代イギリス教育研究会」が培ってきた基盤のもと、次の科研費とも相まって成果が出つつある。

柳田 雅明（青山学院大学）「職業・キャリア教育には国を超える制度設計が有効か 国際バカロレアでの展開を焦点に」、基盤研究（B）、研究課題/領域番号17H02668（2017-04-01 - 2020-03-31）

その科研費研究メンバーには、前出の飯田直弘氏と中西啓喜氏を含めた研究組織が編成されている。科研費が応募時の満額が配分されることのない中、教育人間科学研究所プロジェクトとの相乗効果によって科研費の研究計画自体も本来あるべき形で可能となったことを、是非お伝えしたい。

さらに、青山学院大学総合研究所2019年度基盤研究強化支援推進プログラム「系統知こそ全ての者に欠かせぬ教育内容なのか 基礎論形成とその実践展開から切り込む」ともあいまっての充実した研究活動ができてきていると認識する。

本プロジェクトと関連する次の学会発表も行えた。

○柳田 雅明（青山学院大学）、○御手洗 明佳（淑徳大学）、飯田 直弘（北海道大学）、花井 渉（独立行政法人大学入試センター）、中島 悠介（大阪大谷大学）、シム チュンキャット（昭和女子大学）、中西 啓喜（早稲田大学）、赤塚 祐哉（早稲田大学本庄高等学院）、「職業キャリア教育プログラムにおける国を超える枠組みは、各国・地域でどう機能するのか 国際バカロレア・キャリアプログラム（IBCP）を例にして、イングランド・UAE（ドバイ）・シンガポールで比較検討する」（日本比較教育学会第55回大会）、東京外国語大学、2019年6月8日

○御手洗 明佳 (淑徳大学)、○中島悠介 (大阪大谷大学)、柳田雅明 (青山学院大学)「多様な個に応じたキャリア・職業関連プログラムの設計と進路 ードバイにおける国際バカロレアキャリア関連プログラムを事例として」(日本カリキュラム学会第30回大会)、京都大学吉田キャンパス、2019年6月23日

Masaaki Yanagida (Aoyama Gakuin University), Sim Choon Kiat (Showa Women's University), Wataru Hanai (National Centre for University Entrance Examinations), Sayaka Mitarai (Shukutoku University), Yuya Akatsuka (Waseda University Honjo Senior High School), Hiroki Nakanishi (Waseda University), Yusuke Nakajiima (Osaka Ohtani University), Naohiro Iida (Hokkaido University) "Transnational Frameworks for Vocational and Career Curriculum in National and Local Contexts: The International Baccalaureate Career-related Programme in England, Dubai, and Singapore." World Education Research Association 2019: Focal Meeting in Tokyo at Gakushuin University. August 6, 2019.

柳田雅明 (青山学院大学)、「系統知こそが全ての者に欠かせぬ教育内容なのか 近年におけるマイケル・F・D・ヤングによる論理を焦点に」(日本教育社会学会第71回大会)、大正大学、2019年9月12日

また、次の論考を公にする機会も得た。

柳田雅明. 2019. 「生涯学習とカリキュラム」日本カリキュラム学会編『現代カリキュラム研究の動向と展望』教育出版、168-174頁.

4. 総括と今後の展望

この教育人間科学研究所プロジェクト「多元共生を持続可能にする教育のため、相乗的学問知を創発する 現代イギリスを軸に検討する熟議を通じて」が、何をどうできたかについて示したい。3回の研究会も充実した形で実施できた。遠方の研究者も発表者として招くことについては、コロナ禍によって延期となったものの、年度を超えて別途オンライン方式で実施できた。そして上記の各研究成果も公にできた。

今後の展望としては、まずなにより2020年度も教育人間科学研究所研究プロジェクトとして「多元共生を実現する教育は、いかにして可能となりそれを持続できるのか イギリスの教育について批判的熟議することにより探求する」を採択いただき、さらに発展させた形で研究活動が継続できていることもお伝えしたい。それも、以上の通り2019年度までに「現代イギリスを軸に検討する熟議を通じて」、できたからである。